

社会医療ニュース

リハビリの変化は これからも続くだろう

所長 岡田玲一郎

わたしの持つている辞書によると「回復」とは「一度失ったものを取りもどすこと。もとのとおりになること。」(広辞苑第五版)とある。また「回復期」とは「病勢の進行が停止して治癒に向かつてゆく期間」(同前)と出てくる。しつこく「病勢」をひいてみると「病気の勢い。病気の経過。」である。これで「回復期リハ」がきっちり定義できる。

つまり「回復期リハ」とは、「病気の進行が停止して治癒に向かつてゆく期間のリハビリによって、一度失ったものを取りもどし、もとのとおりにするリハビリ」ということになる。

回復期でなければリハビリは不要なのか
右の問いに対し、不要と言われる人はおられないと思う。そこに「医療依存度」なるものが病棟の基準として立ちはだかっているのが

現実である。ならば、この矛盾をどう打破したらよいかと、医療依存度は低く、急性期の病気を患っていない身として思う。具体的にいえば、歩幅が少しずつ狭くなり、歩くスピードの落ちている高齢者のわたしに照らしてのことだ。むしろ、わたしが病院に行つてリハビリや運動療法を受けたい、受けなければならぬといっているのではない。高齢者の想いとして、退行を防止する運動の指導は受けたいと思ふし、自主的に努力はしている。一方で、脳血管障害で四肢の障害があり急速に退行した機能を保持的に「退行防止」する機能は病院、施設に求められている。いや、回復期リハ病棟でも、必要とするから実施されている。

ただ、先に述べたように回復期ならよいが、回復しないで徐々に機能が低下して医療依存度が低い場合は回復期から排除するというのは、人間として放置されたいという思いが出てくる。一方、日常生活を送っているが私のように徐々に機能が低下している者は、スポーツジムなどで運動していくしかないし、そうなきざつている人は多くなっている。いわゆる高齢化社会のものたらずのものであろう。

しかし、病勢によって回復期になった人間が医療依存度というひとつの線引きで回復期リハ病棟から出なければならぬのはいかかなものかというのが、私見である。それは、回復期リハの収入に直結するリハビリの「単位」の問題と連結するものだが、そこから療養病床でのリハビリの機能が問題となるのだと思ふ。

例えば、おむつ外しひとつとっても、回復期リハ病棟や療養病床でいかほどのアウトカムを達成しているかが、必ず問われてくると思うのである。つまり、リハビリは急性期、地域包括ケア、回復期、療養病床、それぞれに必要であり、そこにそれぞれによるアウトカムによって診療報酬が決められなければならないと思うのである。社会生活を営んでいる高齢者は自分の財布からお金を出してトレ

社会医療研究所
〒114-0001
東京都北区東十条3-3-1-220号室
電話 (03) 3914-5565 代
FAX (03) 3914-5576
定価年間 6,000円
月刊 15日発行
振込銀行 リソナ銀行
王子支店 1326433
振替口座 00160-6-100092
発行人 岡田 玲一郎

ニングをしているが、疾病を有して体力、機能が衰えていく患者はどうするのかという問題である。

リハビリは実施単位とそれを証明するアウトカム

リハビリの実施単位は、病院の収入のためではなく患者がどれだけ回復したかという証明、つまりアウトカムを伴うものでなければ、効率的とはいえない。

「先生、リハビリは4単位やろうが8単位やろうが、結果は一緒です」という証言は、よく聞くりハのスタッフの証言だ。むしろ、病院によつてちがう。そこに医療依存度の問題が絡んでいることを感じる。しかし、高単位のリハビリは必要としない(成果がない)リハビリは必要ないとはいえない。

回復期リハA、B、といったものがあつてもよいのではないかと、社会医療として思うのである。だから、廃用症候群防止リハが出てきたのだが、ここでも、防止ができてくなくて徐々に弱っていく人間をどうするかの問題は残る。

例えば、わたしという83歳の老人になると、若いころ相当体を鍛えていたのに、歩行のストライドはどうしても小さくなってくる。足を動かすスピードも遅くなつてくる。その証拠に、ゴルフのときにカートに追いつけなくなつてきている。以前は、カート並かカート以上のスピードがあつたのに、だ。

廃用症候群防止リハ、といってしまわないで、運動訓練療法ではないのか、と思う。そして大事なことは、劣化のスピードをゆつくりにするので防止は壮年層では可能だが、高齢者になるとわたしの提唱するQOL、すなわち、生きてよかつたなあと感じる機会が多くなることを目指すべきだと思ふ。それには、国民教育も不可欠なことは、リハビリをしたらよくなると思ひ込んでいる国民も多いからである。

そのように考えてきただけに、リハと称されようが廃用症候群にスポットが当てられたのは嬉しいことだ。食事の量と行為の廃用もやつてくる。行為でいえば口にしたものを落としたり洋服などを汚すのも、若いころはなかつたに等しかった。そしてそのことは、年寄りにとってポジティブな想いを招くものではないだけに、いいことだと思つて意を強くしている。

最後に、そのコストをだれがどのように支払うのかという問題は残る。医療や介護の保険というのが主流であろうが、4ヶ月を経過したらどうするか、これからの問題であろう。わたしの個人的意見は、所得に応じて全額自費という制度はあつてよいと思ふ。それと同時に、病院や施設が収入のために廃用症候群リハを利用しようとしなくて、ひとりの高齢者のQOLにスポットを当てべきだ。

組織医療としての病院

(343)

新須磨病院

院長 澤田勝寛

―熊本地震 思ったこと、思い出したこと―

熊本でM7.3直下型の大地震が起こった。ドーンと突き上げるような衝撃、繰り返し発生する余震、倒壊したビルと家屋、不安に怯えながら避難生活を送る被災者、脱線した鉄道、亀裂の入った道路、診療ができなくなった病院、倒壊した家屋に呆然とする住民、無事を喜び合う家族、肉親をなくし悲観にくれる家族、電気・ガス・水道というライフラインが途絶えた生活、支援助資前の長蛇の列。

何もかもがデジャブの世界。まるで21年前の阪神・淡路大震災そのもの。熊本の人たちの苦難は手に取るようにわかるつもりであるが、何もできないことに忸怩たる思いがある。

この度の熊本地震は「天災は忘れた頃にやってくる」どころか、忘れる前に発生した。阪神・淡路大震災で経験をもとに、熊本地震で思ったこと、思い出したことをまとめてみた。

◆違和感のあるテレビ報道

ネクタイにジャンパー。頭にちよこんと乗せたヘルメット。奇異な姿勢、身の安全を確保してください」とマイクに向かって叫んでいた。「い

覧ください、今にも崩れそうな建物です。ああ「危ない」と叫ぶレポーターもいた。いったい誰に向かって何を伝えてようとしているのか。

阪神・淡路大震災では当事者、東日本大震災では傍観者となった経験から、テレビ報道にずっと違和感を感じてきた。被災地の様子がわかるのは、非被災地の人たちだけである。被災地では、どこで何が起こったかわからない。ただ大きな揺れにおのき、逃げ惑うのみである。テレビを見る余裕もなく、見る術もない。

「危険です、身の安全を確保してください」の放送を聴くことができるのは、身に危険のない非被災地の人のみ。阪神・淡路大震災で、全体の概要を知ったのは数日後のことであった。

ガソリンスタンドの列に割り込んだ取材クルーや自分の弁当を無邪気にツイートしたアナウンサーもいた。体育館で寝泊まりしている被災者に「眠れますか」と無神経にマイクを突き付けるレポーター。彼らの幼さと非常識さには辟易する。

◆地震予知は諦めてはどうか

「今後も震度5以上の余震が続

く恐れがあります。警戒してください」。気象庁から繰り返し返される言葉は聞き飽きた。余震なら聞かなくてもわかる。知りたいのは本場の地震予報である。地震は各地で発生している。起こってから繰り返されるのは「余震予報」ばかり。

熊本地震でも予知情報はなかった。おまけに初回に起こったM6.5が前震、翌朝に起こったM7.3が本震と、新たな用語まで出てくる始末。地震調査研究に関する費用は阪神・淡路大震災や東日本大震災といった大地震の後に増え、2012年には350億円にのぼり、東大地震研究所を中心とした「地震村」にその予算が過ぎ込まれている。いい加減地震予知は不可能と諦めてはどうか。

◆BCP (Business Continuity Plan) ビジネス継続プラン

大規模な災害・事故が発生した場合に、企業や行政組織が基幹事業を継続し、早期に事業を再開するために策定する行動計画のことである。事前に業務の優先度を確定し、バックアップシステムの整備や要員確保などの対応策を立てておくことで、被害やサービスの受け手への影響を最小限にとどめることができる。

地震で被害にあったとき、本屋や服屋が営業をやめても困らない。新聞配達も途絶えても影響はない。しかし、自衛隊、消防、警察の活動が途絶えては救助ができない。病院は負傷者を治療しなければならぬ。被災した現場でいかに事業を継続するかが問われる。

熊本は防災計画でM7クラス地震が起きた時3万6500人が避難すると想定し、22万食の食料を備蓄した。ところが、今回は市内だけで10万8266人が避難し、1日で備蓄が尽きた。大規模災害でのBCPはほとんどが想定外に終わると考えたほうがよさそうである。

◆使命感

自衛隊、警察、消防、医療に共通するのは、業務そのものが国を守り、人を守ることである。全員とはいわないが、それなりの高い使命感を持って職務に励んでいる人は多い。病院職員も、病院を頼りてくる被災者を何とかしなくてはと思う気持ちは強い。電気もない、ガスもない、人手もない。検査もできず、医療機器も止まった状態でも、痛みと恐怖におののく負傷者を、何としても救わなくてはという使命感が一層強くなる。

◆情報の一元化

当院では当時管理体制は乱れ、混乱を極めていた。一息ついた病院には職員の不安が一気に広がる。給料は出るのか、勤務時間はどうなるのか、昼飯はどうする

のか、勤務時間はどうするのか、患者はどこまで受け入れるのか、病院のどこが壊れているのか、など。不安が不安をあおり、流言飛語が飛び交う。C3Iすなわち司令、調整、伝達、情報の一元化の重要性を思い知った。災害対策本部を立ち上げ、災害対策ニュースを発行し、指示命令系統と情報の一元化をはかった。

◆陽はまた昇る

新田次郎の名著「八甲田山死の彷徨」の神田隊長の行動はひとつの教訓となる。冬の八甲田山の雪中行軍で神田隊長は雪と寒さに行く手を阻まれる。倒れる兵士、踏ん張る兵士のいる中で、神田隊長は「神は我々を見放した。潔くみんな死のう！」と伝える。それを聞いた隊員は堰を切ったようにバタバタと倒れていった。

リーダーシップの教本といってもいいような本である。リーダーは決して弱音を吐いてはならず、「陽はまた昇る」ことを説き、常に「得意淡然、失意泰然」という態度をしめすことが重要である。

以上、今振り返ってみても、地震で多くのことを知り学んだ。熊本地震発生から10日。九州自動車道は補修が終わり、九州新幹線も全線開通とのニュースが流れた。一刻も早い、熊本を中心とした被災地の救助活動の進展と、復興を祈るばかりである。

福祉・介護職員のキャリアパスやキャリアアップの支援が議論されるようになって10年近くが過ぎようとしている。

この間、筆者は「福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程」(全国社会福祉協議会)の開発に関わってきた。平成25年度から各都道府県の福祉研修実施機関等で①初任者コース、②中堅職員コース、③チームリーダーコース、④管理職員コース、⑤上級管理職コースが実施されている。今年度も4月中旬に3日間の指導者養成研修を実施したところである。

一方、個別法人・事業所の人材マネジメント施策としても職員のキャリアパスの可視化やキャリアアップ支援を本格的に検討する動きが活発になっていく。福祉・介護人材不足はさらに深刻な状況となっており、改めて小手先の対症療法ではない取組みに期待したい。

相互依存の関係認識が必要

ワークキャリアを考える前提条件は、個人と組織が相互依存の関係にあるという認識が重要である。

個人は仕事及び機会を提供する組織に依存しながら職業人生経路としてのキャリアを歩むこ

とになるし、組織は個人の職務遂行能力に依存し、その活動を通じて組織がめざす使命や目的・機能を果たしていくものである。ワークキャリアの研究者である組織心理学者シャインが指摘した構造である。

人は仕事を通じて自身の生活を支えていかなければならない。働くことや社会で活躍することに高い意欲や能力があったとしても、その意欲や能力を発揮する場や機会を得ることができなければ、自己実現することはできない。誰もが

きないし、成果がなければ存続さえ危ぶまれることになる。組織が職員のキャリアアップを支援する意義である。

組織の中で働く個人の側からみれば、組織活動を通じて自己期待(自身の思い)を充足し、自己実現を図ることが期待されるし、組織の側から見れば、一人ひとりの職員がそれぞれの役割や職責・職務を自覚し、組織のなかで求める他者期待の実現をめざして意欲的に活動し、成果に貢献することが期待される

をめざしている。

① 福祉・介護職員が、自らのキャリアアップの道筋を描くことができ、それぞれのキャリアパスの段階に応じて共通に求められる能力の向上を段階的・体系的に習得することを支援する。

② 各法人・事業所が主体的に職員のキャリアパスを構築し、これに沿った職員育成施策を確立・実施することを支援する。

第一の目的は受講者一人ひとりにとっての意義であり、第二の目的は本研修へ受講者を派遣

に受講者一人ひとりが自身のキャリアアップの道筋をデザインすることになっている。

一人でも多くの現任職員が本課程を受講し、福祉・介護職員としての職業人生の未来の可視化に取組んでもらいたいと思う。

法人・事業体としては、自組織の職員研修体系や年度研修計画に本課程を位置づけ、職員を継続的に派遣する体制整備を行ってほしいところである。

キャリアパス要件の本格実施

福祉介護職員のキャリアパスの可視化とキャリアアップ支援を一体的に推進しなければならぬという期待は、平成27年度から拡充された処遇改善加算の取得要件でも明示されているところである。加算(Ⅰ)は、キャリアパス要件Ⅰ、Ⅱ及び職場環境等要件の全てを満たすことが求められている。

平成27年10月に実施した「介護従事者処遇状況等調査」結果(厚生労働省)によると、処遇改善加算を取得している事業所は88・5%で、このうち加算(Ⅰ)取得事業所が75・1%ということだ。

平成28年4月には、処遇改善加算に関する事務処理手順の厳格化の通知が出されが、本格的実施は経営者の責務である。

連載「大介護時代の人材マネジメント」⑩
キャリアパスの可視化とキャリアアップ支援

(株)ナレッジ・マネジメント・ケア研究所 統括フェロー
宮崎 民雄

組織との関係のなかで自身のキャリアを考えていかなければならぬということである。

一方、組織としての法人や事業所は、固有の使命や目的・機能の実現をめざす共同体である。

そこに参加する一人ひとりの

職員の役割や職責・職務を明確にし、協働と連携の活動を組織化するによって、その使命や目的・機能を果たすことができようになる。個人の職務遂行能力を高め、活かしていかなければ組織としての成果は期待で

のである。

法人や事業所としてのキャリアパスの構築やキャリアアップの支援は、職員を組織活動のパートナーとして捉えることによって適切な方向での施策推進が可能になってくる。

キャリアパス対応生涯研修

筆者らが開発に関わり、推進している「福祉職員キャリア対応生涯研修課程」もまた、個人と組織について同様の関係認識のうえで次の2つの目的の実現

する法人・事業所、つまり組織や上司にとつての意義である。

キャリアに関する個人ニーズと組織ニーズに対応し、自己期待(ありたい自分)と「他者期待」(求められる自分)との融合を図りながらワークキャリアを考えると、本課程の意義があると考えている。

本研修課程は、福祉・介護等の現任者を対象としており、初任者から上級管理職員までの各キャリアステージに対応する研修プログラムである。自己期待と他者期待の融合をコンセプト

四苦八苦

銭湯の経営変革にみる 病院の挑戦への意欲不足

四苦八苦

「四苦八苦 四苦八苦 四苦八苦 四苦八苦 四苦八苦 四苦八苦 四苦八苦 四苦八苦」

NHKテレビで、銭湯の経営の実態を視た。公衆浴場という表現だったが、自宅の風呂とのちがいを示した熟語だろうが、戦前派には銭湯のほうが馴染む。大学生時代はお世話になったものだ。

その銭湯の四苦八苦さは、病院経営に通じるものがある。減るだけ減ると見直される歴史があるのだが、病院は減るだけ減つてはいない。これから、勝負だろう。

入浴は、人類だけでなく少なくとも動物は必要としているものだ。病院も、人類に不可欠なものでゼロになることはない。ただ、日本の場合日本人が健康保険ポケにドツブリ漬かしてきたから、病院は増え続け駆け込み増床や入院患者のキャッチボールの獲物にされてきた。銭湯の完全自費とのちがいがそこにある。病院の真の競争が起きない原因も、そこにある。

テレビでいくつかの競争事例をみると、病院経営の甘さが鮮明にみえてくる。銭湯の早朝オープン診療所の夜間診療に似ているが、病院ではあまり聞かない。富士山の絵の壁は定番で、あれがなければ「神田川」のトセツケン、カタカタナツツトが生きてこない。

その情景である男性が早く出て

きて、女性を待つているイメージは消し去られていた。銭湯の内部に退屈しない待ち合わせのスペースを設けているからだ。病院の中のイートインのスペースを想起させるものがあつた。

話はまったくちがうが、大リーグに行った日本人のプロ野球選手が、いわゆるウォッシュレットへの郷愁を語っている。それが、外国人が日本の銭湯の楽しさを語っているテレビの画像とダブってみえた。日本の病院にはアメリカの病院にない良さがあることを探すと、外国人の獲得になることは医療ツーリズムをおやりになつている病院にみる。ただし、まだタイやシンガポールの病院に負けている。そこが、医療ツーリズムに注力されている病院の勝負だろう。

ちなみに、いわゆるウォッシュレットがアメリカの家庭に浸透してきているのは、日本で体験されたアメリカの人のニーズがあるからだ。ただし、ホテルで設置されているのは、わたしは未経験だ。ホテル間競争がおこれば、設置するホテルが増え、TOOTの現地事業所は大繁盛するにちがいない。LIXILでもいいんだけど。

どうも、風呂とトイレは近似性

があるようで、そこに話がいつてしまふ。ただし、そこにあるのは大変な経営の四苦八苦である。オイルショックで店を畳んだ銭湯は多くあつた。病院も診療報酬で赤字が出ると思ったら、赤字にする対応をするしかないという、教訓だ。

そのような眼で銭湯の苦闘の報道をみていたら、病院の経営努力の薄ぺらさを感じる。接遇は確かに向上している。しかし、銭湯のスタッフのように当たり前さを感じる病院は、そんなに多くない。顧客そのものはあまり差はないよう、泥酔者も銭湯にやってくるそう。病院にクレーマーや泥酔者が来たとき、きりつと銭湯のように対応できているだろうか。

しかも、銭湯は回数券を含めてすべて前払いだから、未収金は生じようがない。器物破損は賠償金を取られるそう。一方、われわれ病院は、前払い制度ではない。わたしが現業にあつた時代は、入院の場合は保証金を頂いていたが、最近のままならぬのか法的に違法なのか、未収金の問題はどの病院でもある。外来も前払い制度にしたらよいと思うのだが、診療逃げの患者もいるようだ。

番台にオバサンが座っているよ、オネエチャンが立つて案内していたが、大学生時代は一度でいいから番台に座つて女湯を眺めたいと思つていたことが懐かしい。いずれにしても、挑戦だ。

岡田



がんでもなくとも？
一度は死ぬの！！
看取られるの！！

看とりは、看とる側の支配ではない。看とられる本人、家族、との協働だとわたしはみている。看とる側からの書物は多いが、看とられる側の技術をホスピス医としての体感から書かれた本だ。わたしの表現を凝縮すれば、「高尚に看とられる生き方」である。

ご一読をお勧めする。

岡田玲一郎

この一ヶ月の 喜怒哀楽



◎言葉を失う

4月14日、前日の次弟の嫁の葬儀に参列し、翌日は3日間の職員研修初日を行い、岡山のホテルにいた。NW9を見ていたら「地震情報」で地震の警報がテレビのテロップで流された。熊本地方への警報だ。

熊本は、わたしがいまの仕事始めて、初めて大きな学会に出た所でひと倍の縁を感じているのだし、友人、知己も多い。咄嗟に携帯電話を手にしたが、地震のあまりにも激しさに電話することを心が止めた。さぞや混乱なさっておられるだろう。電話によるお見舞なんて意味がないと……。仮に電話のダイヤルを押しても、おそらくつながらなかつたと思う。2日後の16日になつたばかりの午前1時過ぎが本震だつたので、前震だつたことは、皆様ご存じのことだ。ご家族が電話で安否を確かめるのは自然のことだが、わたしはその後も友人、知己に電話していかない。こういう気持ちになるのはなんなのだろう、と思つた。16日のラジオでは、悲惨の文字では語れない現地の情報が入ってきていた。14日の前震の状況とまるでちがう状況だ。その間にラジオで知人の病院理事長の肉声も聴いた。

た。

そのすべてが言葉にならない、言葉を使ったのは、東日本大震災とちがつた友人、知己の多さだつたから。その心の動きが正しいかどうかの問題ではなく、友人、知己の存在の大きさを知つた。

後日、手紙で右の気持ちをお伝えするしか、なかつた。

◎応援は、してくれませんか?!
バドミントンの日本代表格の選手、スキャンドルが報じられている。記者会見をみていて、こういう言葉遣いをする人間は、そうなるんだと私的に納得した。

田児さんが言う。「応援してくれな……。」と。桃田さんは「応援してくださいな……。」なのが、心の中を表現していると私的に思った。日本語を知らない、謙譲語が使えない。だ。「応援してくれな」としか表現できない人間は、社会の中でどう生きていくのだろうか。

これも私的でない感じだが、暴力団関連に引つ張られる言葉遣いと顔貌を感じた人もおられる。

患者を「診てやつてる」は、昔はよくあつた。さりとして「診させていただいてる」も、謙譲すぎて気持ち悪い。ちなみに「謙譲」とは「へりくだりゆずること」だから、医師が患者にへりくだることはなからう、と思うのである。

化だ。田児さんは乱暴な人間関係になつていて、診させていただくはへりくだりすぎで、これも希薄な人間関係だ。「患者さま」もこれに類すると思うのだが、人間関係は希薄ではない。持論の医療者も患者さんも対等な関係であることから、そう思う。

◎世代で異なる職業人意識

クローズアップ現代が新しくなり、午後10時からになった。睡眠不足を危惧しつつ関心のあるときは視ている。そのクロ現の4月5日は今年の新入社員の意識を報じていた。どうやら「さとり世代」を脱したようで、わたしはいい傾向だと思つている。

職業として選んだ以上、その職業に精通する、つまり自らが就職した会社で成長するという自主性があつてきている。妙な悟りの、しらくけよりはるかによいと昭和も一桁世代のわたしは、おもう。

ましてや、医療、福祉の社会で働く新人の人たちには、「いい仕事」を感じて頂きたい。新人研修ではこの話をするつもりだ。新須磨病院の澤田勝寛院長に便乗するわけではなく、医療も福祉も「いい仕事」なのだから。

宇宙の探査もいい仕事かもしれないが、人間に関わる医療、福祉は、よりいい仕事だと思う。そう思いつながら、いい仕事と感ずる患者さん、利用者さん、ご家族であつて欲しいと心から願う。その人たちにスポイルされて「嫌な仕事」と感じる職業人を創らないで!!

◎最近の研修での反応から

公共施設の女性トイレ倍増運動を2年ほどやつてみて、やはり不便なコトは言わなきゃいけないと痛感している。ホンの少しずつだが、女性トイレを増やすのがみえてきた。病院でも実施されている病院があるかと思えば、男性は大小で4基あるのに女性は2基しかない。不便を訴える職員がおられる病院もある。大会議室の前で、しかも女性の職員の比率の高さからして、正常とはいえない。

そのような病院や施設の職員の反応は、わたしに確実に勇気を与える。女性トイレ倍増キャンペーンは3年ほど前からやつており、成果があり現在は小休止だ。

それより最近反応が高いのが、前頁にもチヨコツと書いたが宇宙探査の問題だ。ヒトミちゃんではなく「ひとみ」という天体観測衛星が、ぶつ壊れた。310億円は原価のようだが、人件費も莫大な額だと思ふ。例えば、宇宙飛行士の訓練を受けて合格しなかつた人の話だと、ひとり一億円は掛かるそう。

スペースシャトルも相当な経費が掛かっているだろう。先のひとみは宇宙の起源を探ることと生命の起源を探査するための衛星天文台である。

わたしは、生命の起源を探つて欲しい気はサラサラない。理由は、それが分かつて、オレ、なんか得するんかなあ、と思うからだ。生命なんて謎のままでいいと、わたしは思つてるんだと言つと、若い人も中年の人と同様の反応を強く出される。ホリエモンさんは宇宙船のお金を払つて宇宙に行くことを表明されていたが、それはいい。国民のお金で行くのではないから。

「文化連」の雑誌に拙稿を書かせて頂いたので、そのことを書いた。ただし、編集方針はあるしJAXAからクレームをつけられるのは本意だから、カットされてもいいといつたら、そのまま掲載すること。不都合な意見ではないよう

だ。謎は謎のまま、わたしたち人類は連綿と生きてきて、死んでいった。ES細胞とかiPS細胞は人類のお役に立っている。山中慎弥先生が「もつと予算を!!」と仰るのは大賛成だ。熊本地震にみるように、宇宙に代表される自然に人間が逆らつても、負ける。生命の起源にも逆らうな、と思ふ。

岡田

これからの一ヶ月の 不安・不運・不信



不安・不運・不信

医療の沸騰点



艱難辛苦は自分を成長させ
組織もその経験なしには成長しない

岡田 玲一郎

「艱難^{かんなん}汝を玉にす」は、わたしの座右の銘である。小学校三年生のとき父を亡くし、母親の手ひとつで育てられるんだと自覚したとき、少年ではあったけど弟2人を一人前にしなければ長男として失格だと思ったときのものだ。しかし、わたしは意気地なしで、座右の銘は思春期と共に座右の迷いなり、ふしだらな生活を送ってきた。それでも、難題を避けたり、逃げる気にはなれなかった。

どうしようもないトップが
いまのわたしを育ててくれた

つい最近、管理栄養士では有名な足立香代子さんと、18年勤務していた病院に足を運んだ。足立さんは、わたしが勤めていた病院に最初に応募してくださった人だ。ずいぶんひどいことを言っていた。その艱難に比べていまの足立さんがあると、本人がいわれるのだから確かだ。

その病院の院長は、いまや行方不明だとご子息の現院長が仰っていたが、そんなことはあるまい。縁を切っているだけだが、わたしと足立さんは縁でつながっている。その院長が、わからず屋もいところ

で、ペアのとき、ボーナス支給日や額るとき、前言を翻すことが多く、日常でもわたしが意見を言うとう「使用人のくせに……」と叱責されたものだ。

まさに艱難の日々だったが、人間だから機嫌の良い日もあり、そのときはまとめて蓄積した課題を提案し、通したものだ。麻酔医に支払う料金が惜しくてわたしが全身麻酔をするニセ麻酔医をやつてからは、少しやりやすくなった。

しかし、そのこと自体が艱難だったから、40歳のとき初めて書いた退職届（願とは書かなかつた）を提出し、慰留は断固として断わり退職した。それからが、五人の子を抱えた父親の艱難である。

なにも、私的歴史を貴重な紙面で「私の履歴書」に書くことしているのではなく、現在の病院施設の経営者、管理職に艱難が自分を成長させるんですよ、と言いたいのである。楽な経営は、確かに楽が楽をよび、ふとそれが世の中と錯覚して経営が緩む。

どれだけやつても、もつとやらなければならぬと覚悟して、苦難の道、即ち艱難を辛苦されたら、ほんとうの楽しさがあるんですよ

と、エラッくではなく書いておく。成長に次ぐ成長をなさっている病院、施設は楽に、あるいは気楽に成就されたか外からみたら思われるかもしれないが、わたしはそこに逃げたくなくなるような艱難があったことを、しばしばみる。

苦勞は買うことはないが
苦勞は楽しく受けとめる

思うに任せないのが、人生だ。同様に、思うに任せる診療報酬や介護報酬はない。もし実現しようとしたら、何万通りもの報酬体系になつてしまふ。よく言うのだが「自院用の診療報酬」はないのである。医療保険制度における報酬は「定価表」なのである。

この定価表での艱難を辛苦するためには、価格競争ではなく地域のニーズの受けとめである。このところの職員研修では、参加者にあなたたちにも子があり、親がある。その立場で自院、自施設に求める「価値」はなんでしょうと、時間を掛けて考えてもらう。

診療科の増設はよく出てくるが、ネイルサロンというアイデアが出てくる療養病院や老人施設がある。食事の多様化、つまり個別献立に施設の価値を求める職員もいる。

しかし、一銭にもならない（直接的にだよ）サービスは、相当な艱難だ。診療科の増設も言うは易く行うは難し、だ。それこそ艱難である。病院や施設を「玉」

にするためには、艱難に挑戦するしかないと思う。わたしもという上から目線と感ぜられるかもしれないが、五人の子を育てるのは並大抵の艱難ではなかつた。勤めていたころはともかく、退職してからも失業保険は二ヶ月でやめて自らを艱難の淵に立たせた。玉になるために、である。どこかに再就職という口はいくらでもあつた（薬剤師だから）。でも、いまは楽に逃げなくてよかつたと思うのは、楽に逃げて看護師を増やして看護管理科を得ていた病院の姿をみているからだ。不必要なりハの単位を増やしているのも、同じ楽な収入への道に逃げられたのだ。

成れの果てという言葉があるが、ゴルフの6インチリプレースの楽に逃げていくゴルフは、ゴルフとして正常なノータッチのプレーをする、見事に結果が悪化する。病院や施設の経営も同じではないかと、思うのである。

職員にもいえることは
熊本地震の職員にみる

家族の安泰を確認したら、仕事先の艱難に立ち向かうのが、フツフツの人間だと思ふのだが、ここでも艱難から逃げる職員もいることは、次頁の「人間性」で書いた。

病院の経営が傾いたとき、沈没しそうな船からねずみと同じように逃げるのか、病院の経営を立て直すためにあらゆるアイデアを

出す事をするのか、どうします?! 私的な話だが、わたしが事務長のときの経験でいえば、院長のために病院を傾けさせないのではなく、職員とその家族のために事務長は艱難に立ち向かうのだと、ほんとうに覚悟していた。いざというときは、オレはお前たちより職員を大事にするとか家族に広言していた。いまとなつては誤りで、家族も大事だが職員も大事という半々だと思ふし、結果はそうなつた。災難だつて、先ずは他人を助けることだと思ふから、飛行機が不時着したら年寄りのわたしは、若い人に先に避難しろと言う覚悟だ。

病院や施設が他の病院や施設を助けるということではなく、大事なのは自院、自施設の根幹である職員であり、経営者は最後でいいという、戦前派のわたしが感じる減私奉公はあつてよいと思ふ。

もちろん、現代社会ではそれは通じないとおつさり言う人はおられる。しかし、事実はどうだ。職員を大事にしない組織は永続しないではないか。三菱自動車など二連の経営悪化事件が、それを証明している。悪事は千里を走るといわれているように、組織風土は悪事により奈落へと落ちていく。

スマホなどの便利なモノに毒されていることは、家庭という組織によつてちがうことが最近、発表された。メシよりもスマホは、子だけの問題ではなく家庭の問題だ。

自然とは畏れ多いものだ。熊本地震の前震（わたしは予震と思っている）と、続く本震は人間性を露わにした。避難されている家からPCなどの盗みを働く奴、それも遠方からくる奴もいる。振り込み詐欺もどきの「つけこみ悪者」もいる。それも人間性といってしまってもよいのだが、複雑だ。

病院や施設も、日常の人間性の教育、そして組織風土による確かな人間性の職員の過多が問われた（という便りが多い）。テメエの家や家族のことは、それはそれで大事なことだが、それがファースト・チョイスにしても、セカンド・チョイスは働いてい

災害と人間性



る病院や施設の患者さんや利用者さんだろう。建造物の損壊は手が出しようがないが、そこには人々がおられるのだ。企業は機械が大事故だが、病院や施設は機械、器具はサードだし、壊れたら交換か、修理するしかない。

患者さんなどの人の外傷は、機械の修理に類するところがあるが、精神はケアが必要だ。キヌアとケアという、昔からいわれていたこととの両立だ。それができる職員の多い病院、施設はホンモノの日常があるからだと思う。

ひたすら診療報酬点数を稼ぐことに職員教育のポイントを置いてみると、キヌアとケアの両立

ができる、いわば豊かな人間性を有した職員が育つだろうか、と思うのである。そりゃ、つい最近までは、貧しい人間性の職員に診療報酬を稼がせておけば、経営は安定していた。ただし、確実なことはそんな病院、施設では豊かな人間性の職員が去っていった。当たり前の話である。

熊本地震でも、わたしが関わらせて頂いてきた病院、施設では、職員の献身的な働きがあったとの便りを頂いている。うれしいことである。先ずはわが家、わが身、わが家族なのだが、ほとんど同時に患者さん、利用者さん、そして病

院、施設の建物に思いが走る人間の豊かな職員の反応である。そんなことを露呈させる自然とは、なんと畏怖なものかとおもう。老いや死も自然と受けとめるとき、そこに畏怖を感じるのである。

ましてや、人間様を需要者とする病院や施設では、その経営は自然でなければならぬと断言する。無理矢理とは、きわめて不自然なことだから、無理矢理な看護管理料やリハビリの単位は、壊れて当然なのだ。豊かな人間性を表す職員は、無理矢理な経営方針の病院や施設から去っていく。残

るのは貧しい人間性の職員である

イエスマンだけになって、経営は加速度的に悪化する。なにも、三菱自動車や東芝を例に出すまでもなく、ゴマンとその実証例はある。そして、時代はいろんな変遷を経ていきながら、バブルを起こしたり、正常化の道を歩んだり、往來する。それが世の中というものなのではなからうか。タカタのエアバツグなんか、まさに人間性もつ変遷のプロセスだろう。

豊かな人間性とは、自身が磨くものではあるが、やはり組織風土が育てるものだ。マスゾエさんなんか、報道によらなくても「都庁」という組織風土が育てたものだと思うから、豊かな組織風土を醸成するのが経営者の責務だと思うのである。トップが貧しい人間性だったらどうなるか。スマホ老眼になる若者には理解できないことだ。しかし、都市部の電車の中のスマホ中毒の若者、そして最近はその増殖ぶりは、ものすごい勢いだ。日本は、どうなるの!?

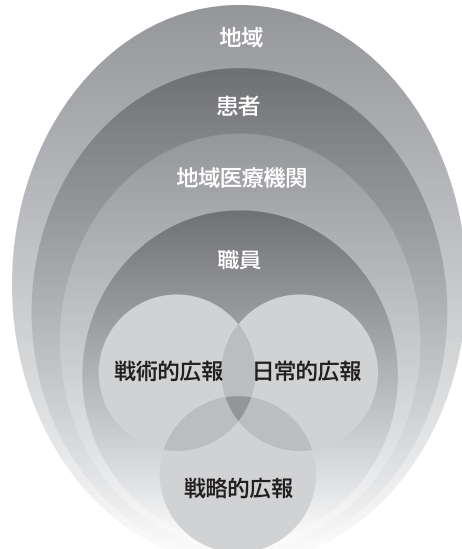
そのスマホ産業も、勢いを失ってきていると経済誌を報じている。なにごともしも頂点があったら下落するだけだが、人間性は頂点がない。頂点であれ、豊かであれ貧しくであつても、人間は消滅する。その消滅までをどう生きるのかが、死後の世界があつたら分かるだろう。

しっかり経営するための基本中の基本である。

岡田

広報的視点から、病院のビジネス構造の改革をサポートします。

病院経営の再構築の時代を迎えた今、私たちHIPは、貴院の将来ビジョン、そのための経営戦略・戦術における課題を見出し、そのためのソリューションとして、広報活動を組み立てます。アプローチの視点は三つ。戦略的広報、戦術的広報、日常的広報。いずれにおいても、病院経営者、そして現場の職員の方々と一緒に考え、貴院がめざす医療、病院の実現に向けて、あらゆる広報表現物をご提供します。



HIP 有限会社エイチ・アイ・ピー
〒466-0059 名古屋市昭和区福江2丁目9番33号
名古屋ビジネスインキュベータ白金406
合同会社プロジェクトリンク事務局内
TEL052-884-7832 FAX052-884-7833
貴院の広報をあなたといっしょに考えます。そして答えを出します。私たちはエイチ・アイ・ピーです。

広報、情報の視点から病院経営を考えます。

広報で変わる 医療環境

DOCUMENTARY FILE

第410回 これからの福祉と医療を实践する会

私自身の経歴は医療のマネジメ... 日本社会事業大学の存在も、ユ...

初対面ではテクノエイド協会の... 『聞こえのハンドブック』を下さ...

幅広い概念のテクノエイドを広... 「24時間シートはアセスメント...

医学・看護学・リハビリ等々に... 大江戸線若松河田駅下車徒歩8分



富山県福祉カレッジ 学長... 参加費 会員 八〇〇〇円... URL http://www.jissen.info

新宿区戸山1-22-1... 地下鉄東西線早稲田下車徒歩10分

書き終えて

▼今生の見納めというフレーズがあ... 縁起の悪いことではないようだ。

▼ご夫婦で旅行される人、最近ほ... 5月5日の子どもの日、妻と孫

▼たしかに女性の年寄りが多い... あまりにいい景色ではないが、こんな

▼友人に会い、旧知の土地に行き... 話題のイベントに行く、それこそ

▼老後生活も籠るより出ていくほ... うがよいことを経験する。性格に

競馬の土日だが、死という自然に... 向かつて歩む時間の価値をそこに

医療と介護をデザインする企業 株式会社 星医療酸器

パレットで解決! GPS 全球測位システム

Bluetoothリモコン 2階から1階、別の部屋からでも、リモコン操作が可能です。

どうしたのかな??? 機器に何かの不具合が発生すると手元の画面で対処方法が確認できます

いろいろ知りたい! ポンプの使い方等の必要な情報は、動画でいつでも見ることが出来ます。

在宅酸素療法 Back to Home! HOME OXYGEN THERAPY KOT

酸素濃縮装置 酸素濃縮器リモコン 災害時救済ボタン付 ※写真は2L器

携帯用ポンプ 生活に合わせて色々な使い方が可能です。3色からお選びいただけます